1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100458		
法人名	株式会社リバソン		
事業所名(ユニット名)	グループホームふどきいひるず イーストビレッジ		
所在地	和歌山市岩橋55-8		
自己評価作成日	平成29年9月26日	評価結果市町村受理日	平成29年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成29年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ふどきいひるずの運営理念である「その人らしい普通の暮らしを愛する地域で」のように地域の防災訓練や運動会に参加しています。職員と入居者様との関わりの中で人に対する思いやりを大切に、その人らしさを十分発揮して頂ける様支援しています。年に1回家族様もご一緒に観光バスで日帰り旅行を行い楽しい思い出作りを行っています。夏祭りは家族様や地域の方に来て頂き賑やかで楽しい一時を過ごして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広々とした共有空間の中で、ゆったりと自分らしく穏やかな表情で入居者が過ごしている。若いスタッフが静かに寄り添い、トイレ誘導など支援している。また、見晴らしの良い環境の中で、終末期ケアもおこなわれ、防災等地域と協力し合って毎日の生活を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を見やすい所に掲げ、管理者職員は理念を共有し、日々の方針として業務に取り組み地域との交流に努めています。	事業所理念を見やすい場所に掲示し、会議等でも職員間で共有している。入居者がその人らしい生活を地域に密着した状態で送れるように、管理者は実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の掃除に参加しています。防災訓練や地域の運動会に参加し地域との関わりを大切にしています。初詣は地域の神社へ参拝しています。夏祭りは地域の方に毎年参加して戴いています。	自治会長と連携をとることで、溝掃除や地域の運動会に参加している。また、夏祭りやイベント等では回覧板を作成、地域の方にも参加協力していただくなど、地域との関りを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方や包括支援センターの方が来られた時、報告させて頂いています。運営推進会議には入居者様も参加して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、入居者様状況や行事、活動報告、研修報告、感染対策、安全防災対策等の報告をさせて頂いています。又頂いた意見はサービスの向上に活かしています。	運営推進会議には、地域の自治会長、包括支援センター職員、家族の代表、入居者、同系列のグループホームの代表も加わり、2か月に1回開催されている。そこでの入居者・職員の状況報告、外部・内部研修等の報告や話し合いを職員が共有することで、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の各担当者には、その都度不明点をお聞きしています。生活支援課の担当者とは常に情報交換を行っています。行政に関して不明な事は相談させて頂いています。	運営推進会議には 地域包括支援センターの職員の参加もあり、市の担当者とも、事業所の運営や入居者についての相談を電話や訪問することで、連絡を密にとり協力関係を築くように取組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関、窓には施錠せず、自由に屋外に出る事が出来ます。GHの身体拘束、言葉のケアについて会議で話し合い、日常の介護に活かしています。	外部研修で学んだ内容を新人研修や内部研修で報告し、話し合うことで、正しく理解しあっている。日中、玄関や窓には施錠せず、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全対策委員会、施設会議で虐待について話し合い、職員に周知防止に努めています。常に職員同士で介護の仕方、声かけの仕方など話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加しています。現在必要とされる方はいません。必要に応じて支援させていただきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分時間を持ち、利用料金、個人情報、重度に伴うリスク、秘密保持等詳細に説明しています。不安や疑問には丁寧に説明し納得して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で意見や要望を話せる機会を設けています。入居者様には何でも話して頂ける生活環境を整えています。又玄関先には苦情箱を設置しています。	月1回の施設だよりの発信等、家族に入居者の生活を知っていただく努力をし、家族会への参加を増やしている。また、夏祭りでスタッフの名札を付けてほしいなど、希望を出しやすい雰囲気を作り運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員の意見や提案を聞き入れる機会を多くとり、実行できるようにしています。	職員が参加しやすい会議を多く開くことで、入居者へのかかわりや職員の提案を聞く機会を増やして、運営に反映させるようにしている。また、年1回は各職員と管理者の話し合いをし、意見を反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の自己評価を行い、職員の努力や能力を把握し、職員が前向きに働ける様取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や普通救命研修に参加できるよう支援しています。定期的に内部研修を行い知識を身につけるようにしています。新人職員には新人研修を行っています。又ojtキャリアパスも取り入れ職員のスキルアップに繋げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GHの勉強会、福祉関係の研修に参加しています。日頃から他事業所と連携をとりサービス向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時、生活状況の把握に努めています。ご本人様の思い、不安や要望などをお聞きし、職員全員で共有し、ご本人様の事を理解し、入居後の生活の不安の軽減に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設内外の環境を見学して頂きます。ご家族様の現状、困っている事、悩み、疑問、要望などをお聞きして不安の軽減に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様家族様の思いや状態を把握し、必要とするサービスを見極め、ご本人に合ったサービスを提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを大切にし、食事作り、洗濯物全般、買い物、掃除など出来る事は一緒に行っています。若い職員は料理や裁縫など入居者様に教えて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の体調の変化、気になる事があれば、その都度家族に連絡し一緒に支援しています。困った事などは家族様と相談しながら共に支えて行く関係作りを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に生活されてたお家やお店へ出かけています。職員と一緒に本人様の馴染みの場所へ出かける機会を持っています。	電話の必要な時は職員を経由していつでもかけられるようにし、繋いでもいる。また、事業所近くの入居者も多く、入居者の希望で帰宅したり、なじみのお店に出かけるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係は常時把握しています。ユニット同士が繋がっており、落ちつかれない時などは別ユニットで過ごされる時もあります。両ユニットの入居者様、職員全員で支え合える関係が出来ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談援助はお受けしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとる事で入居者様の思いやしたい事などを聞き実行できるように支援しています。思いや意向を表現出来ない方に対しては寄り添い本人様に合わせながら支援しています。	指定のアセスメント用紙に記入した内容を職員間で確認することで、それぞれの思い込みによる支援を避け、迷ったことはご家族と相談し、一人ひとりの思いや暮らし方の希望を職員間で共有し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、過去の事、趣味や好きな事などをお聞きしています。業務の中で知りえた情報はファイルに残し職員で共有するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックを行い本人様の健康状態を把握しています。日々の過ごし方、残存能力などを把握し出来る事は自分でして頂けるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、家族様の思いや希望などをお聞きしています。主治医や看護師等の意見も取り入れています。月1回カンファレンスを行い現状把握に努め介護計画に反映しています。	毎日の生活の中での入居者、家族の思いや課題を共有する中で、モニタリングを通して入居者の現状に即した介護計画を、かかりつけ医等を含めた話し合いを通じて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護計記録に一日の生活を記入し全員で共有しています。特記事項は申し送りノートに記載し全員で把握し気をつけています。継続事項は介護計画に反映しています。定期的に評価を行い実践に繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族様のニーズに対応できるように支援しています。家族様支援、外出支援、通院支援等その方にあった柔軟な対応を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーやコンビニへ買い物に出かけています。地域の方からのお米の購入、地域の神社への参拝、地域の運動会や防災訓練に参加させて頂いています。又自施設の夏祭りには地域の方に来て頂ける様働きかけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合病院への受診は本人様、家族様が希望され行かれています。家族様が対応出来ない時は職員が付き添っています。主治医や歯科医師の訪問を定期的に受けています。緊急時は主治医に連絡し指示を仰ぎ対応しています。	かかりつけ医が月2回定期検診し、看護師と歯科衛生士が週1回訪問、そのほか皮膚科・泌尿器科の往診も受けている。緊急時はかかりつけ医に連絡し、指示を仰ぎ対応し、内容については職員に申し送り時、会議時にメモに残し対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来て下さり、健康管理を受けています。夜間、緊急時の対応もして下さり入居者様の適切な健康管理の支援を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院関係者に日頃の日常的な状況をお伝えしています。入院中は定期的にお見舞いに行き、医師や看護師、家族様と連携をとりながら、早期退院に向け話し合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化や終末期の看取りに関して説明を行っています。重度化した時は、主治医、家族様、訪問看護師、職員間で十分話し合い方針を決めています。	終末期ケアを行っている。契約時、または状態の変化時に本人、家族と主治医、訪問看護師、職員間で十分話し合いを行い、方針を決めている。現在も1名につき支援に取り組んでいるが、食欲が出てきて回復に向かっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の普通救命講習会に参加し知識を身につけています。施設内研修も行っています。事故発生マニュアル、緊急時マニュアルを作成し目に付く所に掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を実施しています。火災や風水害に備え近隣地区に協力体制を得ています。地域の防災訓練に参加しています。又食料品やオムツ類も災害用に備蓄しています。	通常訓練に加え夜間対応の訓練も行っている。自治会長が地区の消防隊員なので、避難の際の協力をいただいただけでなく、地域の方の受け入れも行うなど、互いの協力体制を築いている。また、災害の種類により、隣の自動車学校と避難場所の契約を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、プライバシーに配慮しています。その方に合った声掛けを行うようにしています。気持ちよく過ごして頂ける環境をいつも心がけています。	入居者の表情や動きに、尊重されている様子が表れている。特に重度の入居者は家族と相談し、小さいときからの呼び名である下の名前で呼ぶこともある。全体的に職員の声は大きくなく、近くで寄りそっている様子がうかがえる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様のご希望や要望はお聞きするようになっています。自己決定の難しい方には簡単な質問をしたり、表情を見てコミュニケーションを取るようになっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望を尊重し、一人ひとりのペースに合わせながら安全に考慮しながらその人らしい生活が送れよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好みを大切にさせて頂いています。自分の好みの服を選んで頂ける機会を作っています。定期的に訪問美容に来て頂きその方にあつた髪型や毛染めをして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の出来る事に応じて職員と共に調理や後片づけを行っています。手作りおやつやたこ焼き等入居者様と行います。食事は入居者様と職員で同じテーブルで行います。	入居者の好きな方法で、準備や片づけを職員と一緒にしている様子が、入居者全員に見え、食事の時間が自然に全員に伝わっている。また、同じ献立で一緒に食事をしている職員は、食事介護の必要がある入居者に対して声かけで食事ができるように工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の内容が偏らないようにしています。食事量、水分量を記録に残しています。スポーツ飲料等も含め水分確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っています。ご自分で出来る方には自分で頂き、介助の必要な方は支援させて頂いています。週1回歯科衛生士による口腔管理、必要に応じて歯科医の往診を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンを把握し、なるべくトイレにて排泄して頂ける様支援しています。入居者様の行動を把握しトイレ誘導を行い排泄の支援を行っています。	入居者の排泄パターンを記録し把握している。夜間はパットやおむつを使用している入居者もいるが、日中は共有空間に近い場所にトイレがあるので、ほとんどの入居者にトイレ誘導を行うなど、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを記録に残し、職員が全員が把握できるようにしています。毎朝、牛乳や乳製品を飲んで頂き、水分補給や適度な運動も心がけています。必要に応じて訪問看護師、主治医に相談させて頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様には隔日の入浴を行っています。入居者様の希望で毎日の入浴も行います。入浴中はお話したり、歌をうたったり楽しく入浴して頂ける様支援しています。	入浴は希望に応じて隔日にし、夏場は午前中、冬場は午後、急変時を考え、医師の往診時間帯に支援するようにしている。また、必要に応じてシャワー浴や清拭も行い、入浴を嫌がる入居者には職員を替えたり、時間をかけて言葉かけを行うなど、工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の睡眠パターンを把握していません。寝付けない方には温かい飲み物を飲んで頂いたり、職員とくつろいで頂き入眠への支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の個々の病名や服薬は職員全員で把握するようにしています。体調不良時等で服薬に変更がある時は口頭で早急に伝え、申し送りノートでも変化が確認出来るよう職員全員で把握するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意分野で出来る事はしています。興味のある事、行きたいところなどお聞きし実践で出来るようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望により散歩、買い物、ドライブ、外食などを行っています。又全員で花見や行事による外食などを行っています。	出入口の施錠はなく、中庭や園内にはいつでも出られるように外にも椅子等を配置し、外に出やすいように工夫している。さらに、近くにある神社やコンビニまでは、入居者の希望にそって買い物や気分転換に外出支援を行っている。また、家族と一緒に日帰り旅行も計画され、多数参加し楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方には、自分で管理して頂いています。職員と買い物に出かける時はご自分で支払って頂ける様支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が希望された時は電話をかける支援を行っています。家族様からの電話は職員が取次ぎお話して頂いています。年賀状は入居者様に一文書いて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな田園地域と山が見え季節を感じる事が出来、車の通りも少なく安全に過ごして頂けます。施設内は広くゆったりとのんびり過ごす事が出来ます。	全体的に廊下に面してガラス戸になっており、とても明るい印象である。施設の周りは建物が少なく見晴らしがよいこともあり、テーブルと椅子が程よい間隔で置かれている中で、入居者と職員が居心地よく過ごせる空間ができている。	広い廊下の突き当りに会議ができる広間があり、利用者も散歩がてら訪れている。しかし、広間の途中で手すりのない部分もあるので、早急の設置を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は広く、気の合う仲間と一緒に過ごすスペースがあります。又静かにのんびり過ごせる空間があり、施設内を散歩する事も出来ます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやタンス、仏壇など使い慣れた物を置いています。家族様の写真を飾って頂いたり、思い出の品物を置いています。本人様、家族様と相談しながらくつろげるお部屋作りを行っています。	使い慣れた家具や仏壇を入居者と一緒にレイアウトするなど、居心地よく過ごせる工夫をしている。また、ドアは内側から閉めることもでき、使用している入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋には手作りの表札、トイレには「便所」と入居者様にわかりやすいように表示しています。廊下、トイレ、浴室には手すりが設置されており自立した生活が送れるようになっています。施設全体はバリアフリーで安全に過ごして頂いています。		